

平成25年栃木県議会定例会の開会に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

県議会におかれましては、昨年、全国の都道府県に先駆けて通年議会を導入され、本日は、通年議会としての2回目の開会を迎えられました。

昨年は、5月の県東南部の竜巻等災害の際、速やかに臨時会議が開催され、時機を逸することなく、被災者支援及び災害復旧等への迅速かつ適切な対応を図ることができました。また、常任委員会におきましては、県政の重要課題等を「特定テーマ」として取り上げ、通年議会の会期を通して掘り下げた調査研究を行い、貴重な御提言をいただきました。本県議会が、全国都道府県議会の先頭に立って大きな成果を挙げられていることに、執行部といたしまして大変心強く感じているところであります。

今後とも、県政における様々な課題の解決に向け、県民益の最大化を目指し、議会と執行部が互いに切磋琢磨しながら、真摯に議論を重ねて参りたいと存じますので、引き続き、議員各位の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、現在、国におきましては、昨年末に発足した新内閣により、「新しい日本」に向けた国づくりがスタートいたしました。中でも、喫緊の課題であるデフレからの脱却による経済の再生につきましては、大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起するための成長戦略を三本の矢として、国の総力を挙げて推進することとし、去る11日には緊急経済対策、15日には補正予算案が閣議決定されたところで

あります。県といたしましては、国の打ち出した対策に迅速かつ積極的に対応し、依然として厳しい状況が続く県内経済の活性化と雇用の安定に、万全を期して参る考えであります。

また、新内閣に対しましては、国民生活の安定に直結する重要課題について、地方と連携・協力しながら取り組むこと、そして、地方の活力こそが国力の源であることを十分認識し、更なる地方分権改革を推進することを期待するものであります。

さて、本年は、私にとりまして、知事三期目の実質的なスタートとなる重要な年であります。東日本大震災からの復興を確実に仕上げの段階へと進めて参りますとともに、中間年を迎える栃木県重点戦略「新とちぎ元気プラン」につきまして、政策の基本である「人づくり」をはじめ、「安心」「成長」「環境」の3つの重点戦略に掲げたプロジェクトの着実な推進に全力で取り組んで参りたいと考えております。

まずは、大震災からの復興に向け、ハードとソフトの両面から防災・減災対策を講じるとともに、防災に関する条例制定に取り組むなど、災害に強いとちぎづくりを進めて参ります。また、引き続き、原子力災害からの影響に対し、各種モニタリング検査の徹底を図るとともに、オール栃木体制で風評被害の払拭に取り組んで参ります。

次に、明日のとちぎづくりの礎である「人づくり」につきまして、とちぎの子どもたちの学力向上をきめ細かく支援していく本県独自のシステムを構築していくとともに、グローバル人材の育成に取り組み、世界に飛躍する若者をとちぎから輩出して参りたいと考えております。

また、将来の国体開催等を見据えながら、県民総スポーツの推進拠点として、総合スポーツゾーン全体構想の策定を進めて参ります。

次に「暮らしを支える安心戦略」についてであります。健康長寿とちぎの実現に向け、健康づくり推進のための条例制定をはじめ、県民の皆様や企業、民間団体等全ての主体が連携・協働して取り組む健康づくり県民運動や、総合的な在宅医療推進体制の整備を進めて参る考えであります。また、子育て、介護、福祉など、地域での安心な暮らしを支える施策の充実を図って参ります。

次に、「明日を拓く成長戦略」についてであります。本県の成長を支える産業の振興、戦略的な企業誘致、安定した雇用の確保、さらには、観光立県とちぎを目指す取組を総合的かつ切れ目なく展開して参りたいと考えております。また、「いちご王国とちぎ」の地位を揺るぎないものとするため、「スカイベリーブランド」の確立に向けた取組を戦略的に進めて参りますとともに、引き続き、とちまるショップを拠点とした情報発信力の強化に努めて参りたいと考えております。

次に、「未来につなぐ環境戦略」についてであります。太陽光や小水力など、本県の豊かな自然エネルギーを最大限活用し、メガソーラーの導入支援や県有施設の屋根を活用した太陽光発電、農業用水路を活用した小水力発電の推進など、再生可能エネルギー導入の取組をより一層推進するとともに、こうしたエネルギー施策をより効果的に進めていくための新たなエネルギー戦略の策定を目指して参ります。

次に、指定廃棄物の最終処分場につきましては、その設置に当たっては、地元の皆様の御理解が大前提であると一貫して申し上げて参り

ました。去る4日に井上環境副大臣、秋野環境大臣政務官が来県された折にも、昨年私が候補地に赴いた際に、地元の皆様から伺った御意見を直接お伝えするとともに、地元の皆様の声を真摯に受け止め、事業主体として、国はしっかりと説明責任を果たしてほしいと申し上げたところでもあります。この問題につきましては、引き続き、矢板市との信頼関係を保ちながら、適切に対応して参る考えであります。

さて、本年は、現在の栃木県となって140年目に当たる記念の年です。6月15日の県民の日には、県民の皆様にごふりさと“とちぎ”の良さを再発見していただく契機となるイベントを開催したいと考えております。また、平成26年1月から2月にかけて開催する第69回国民体育大会冬季大会、同年10月に開催する第27回全国健康福祉祭とちぎ大会「ねんりんピック栃木2014」など、来年以降も全国規模の大会や各種イベント等を予定しておりますので、これらを機に、とちぎの元気や魅力を全国に発信して参りますとともに、より多くの皆様に本県においでいただけるような取組についても検討して参りたいと考えております。

なお、財政健全化への取組につきましては、「とちぎ未来開拓プログラム」の集中改革期間が平成24年度で終了いたしますことから、プログラムの考え方を継承した「財政健全化取組方針」を策定し、平成25年度以降も財政健全化の取組を緩めることなく継続して参る考えであります。

さらに、仕事の原点は現場にあることを改めて徹底し、県民の皆様や市町村の声を真摯にお聴きして参りますとともに、スピード感を持

った対応と決断力、発信力の強化などを大切にしながら、県政の推進に全力で取り組んで参ります。

以上、平成25年栃木県議会定例会の開会に当たり、私の県政運営に当たっての所信の一端を申し述べさせていただきました。

改めまして、“チームとちぎ”のリーダーとして、本県の持てる全ての力を結集し、本県を新たなステージに高めることにより、「元気度 日本一 栃木県」の実現を目指していく決意でありますので、引き続き、県民の皆様並びに県議会議員各位の更なる御理解とより一層の御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。